

広島県支部

地域活性化事業計画の策定と支援方法についての調査・研究 府中町をモデルにして

・府中町を取り巻く環境について

府中町は、日本一税金の安い町と言われた時期もあったが、マツダの不況による販売不振とキリンビール広島工場の老朽化による閉鎖で財政状態が悪化した。府中町の課題は、大きく分けて『観光開発、特産品の開発、ソレイユとの共存』の3つである。

・府中町が持っている資源について

府中町には、安芸の国府を始めとする神社・仏閣等多くの名所古跡がある。観光資源として、みくまり峡・揚倉山健康運動公園・呉婆々宇山等がある。

・先進事例について

広島市他遠方からの計約33万人の観光客が利用している『ふれあい公園とよひら「道の駅」豊平どんぐり村』、自然を生かし花中心のイベントを企画している『国営備北丘陵公園』、佐伯町・吉和村と合併し観光開発に力を入れている『廿日市市』、その他として、『ピオトープ関連（安佐南区の住民グループの活動、廿日市市住民グループの活動）』、『オルゴール関連（店舗販売、総合体験型施設、ネット販売、メカ製造）』、『特産品関連（手作りハンバーガー店、高校生がニュー和菓子を提案、大崎上島町の特産品売り込み）』、『史跡や歴史関連（被爆寺にミニ公園を作る、三滝の魅力発信・ガイド本作成、倉橋町や豊町の名所を探訪・10月に歴史ウォーク、宮島町で重要伝統的建造物の調査、鞆の史跡勉強会）』、『サイクリング関連（しまなみの乗り捨てOK貸し自転車、中学生が地域美化に協力し看板作成）』についての情報を収集した。

・活性化提案の概要について

活性化の基本的な理念は、『府中町の産品を町外へ出荷しその代金が府中町に集まってくる・府中町以外の方が府中町に集まって来る』とし、活性化の評価尺度は、『入れ込み観光客の人数・工業出荷額・商業出荷額の増減である』とした。活性化事業は、(1)みくまり峡の活用について、『水性小動物が生息する池を中心としたピオトープ、四季を通じて楽しめる環境づくり、テント等の貸し出し・食材燃料の販売等によるキャンプ場の充実、四季折々のイベントを数多く開催するイベントの充実』、(2)史跡の活用について、『9ヶ所の史跡と5ヶ所の景勝地を結んだ「水と歴史のウォーキング」や「水分峡森林公園散策ルート」「サイクリングコース」等の整備』、(3)揚倉山健康運動公園の活用について、『グラウンドの整備・管理棟の設置による町内外からの利用者拡大の推進、管理棟・食堂・

売店の管理者等を町内からの募集』、(4)特産品の開発について、『女性ファン・固定客が作れる可能性の大きいオルゴールの販売』、『玉ねぎジュースの生産』(5)府中町のPRについて、『パブリシティの活用、ホームページ・Eメール活用方法の検討、「観光だより」や「マップ」の充実』を提案した。

・活性化提案の具体的内容について

活性化提案は、早期に着手できる事業(分類)、中期的な視点で捉えるべき事業(分類)、長期的な視点で捉えるべき事業(分類)に分類する。具体的な内容は、

1. みくまり峡の活用について、(1)ピオトープ関連は、『分類 が基本構想のまとめ、候補地の選定で、分類 が生態系の調査、環境の分析で、分類 が資金計画の策定、事業計画の策定』(2)環境づくりは、『分類 が四季を通じた環境作り、休憩場所の確保で、分類 が案内板の設置』(3)キャンプ場の充実は、『分類 が、キャンプ場の管理、キャンプ場の管理の実務で、分類 が駐車場の設置』(4)キャンプ場を使ったイベントは、『分類 がみくまり峡まつり、ほたるまつりで、分類 がみくまり峡探訪、俳句会』(5)イベントの充実は、『分類 が子供向け企画、若者向け企画、中高年向け企画で、分類 が家族向け企画、大型商業施設との共同企画』を提案した。
2. 史跡の活用について、(1)ハイキングコースの整備『分類 が水と歴史コース、散策ルート』(2)サイクリングコースの整備『分類 が有料貸し自転車、公園めぐり』(3)イベントの充実『分類 が古跡と歴史のファミリーコースで、分類 がウォーキングラリー』を提案した。
3. 揚倉山健康運動公園の活用について、(1)事業の管理・運営『分類 が目的の確認と県・町との折衝で、分類 が管理体制の整備、予算編成で、分類 が管理人の募集』(2)インフラの整備『分類 がグラウンドの整備、管理等の企画で、分類 が駐車場の整備』(3)イベントの充実『分類 がこどもスポーツ大会で、分類 がマラソン大会』を提案した。
4. 特産品の開発について、(1)オルゴール『分類 が小売の展開で、分類 が店内加工、事業の拡大』(2)イベントの充実『分類 が特産品まつり』(3)玉ねぎジュース関連『分類 が特許公報の検討で、分類 が資金調達の検討で、分類 が生産者の公募、生産方法の研究』(4)その他『分類 が知名度のアップで、分類 がインパクトのある商品』を提案した。
5. 府中町のPRについて、(1)パブリシティの活用『分類 が原稿の作成、記者クラブに説明』(2)ガイドブックの作成『分類 が史跡の調査で、分類 が特産品の調査、構想の検討で、分類 が発行』(3)観光だよりの発行『分類 が編集方針の検討、担当者の募集で、分類 が取材と編集、発行』(4)ホームページの充実『分類 が学校・企業の調査で、分類 がメイリングリストの作成』(5)イベントの充実『分類 が撮影会の開催、写真コンクール』を提案した。

・ **中小企業診断士の支援と役割**

府中町の活性化事業を積極的に、継続的に推進するために、その推進母体である「活性化企画委員会」の委員会及び各種研究会に、中小企業診断士も一員として参画し、委員会及び研究会活動の支援・助言を行う。また、会議の運営・各種調査・資料のまとめ及び外注委託・関係機関との連携等がコーディネータとしての中小企業診断士の役割である。